

神奈川県立歯科大学資料館～人体標本と 100 年史～ 開館

—資料館に込める想い—

館長 鹿島 勇

本学は、1910年に開設した東京女子歯科医学講習所に始まり、建学の精神である「生命に対する畏敬の念」を今日まで継承している100年以上の歴史を持つ歯科医学教育機関です。

この資料館は、その悠久の刻をかけて創り上げてきた文化の習熟度の指標であり、100年の歴史を有する大学としての品格の象徴となります。また、教職員の帰属意識や在学生の母校意識を高め、旅立って行った多くの卒業生同士を繋ぐ絆の象徴ともなります。さらに、学外との関係構築のための **Diplomacy** としての役割をも担うことになるでしょう。

「量り知れないものを形にする」ことをコンセプトに開設したこの資料館が、明日への生きる意欲・活力を起こさせるための深い感動を与える場となることを願っております。

—資料館設立の経緯と御案内—

設立準備委員長 勝野 賢一

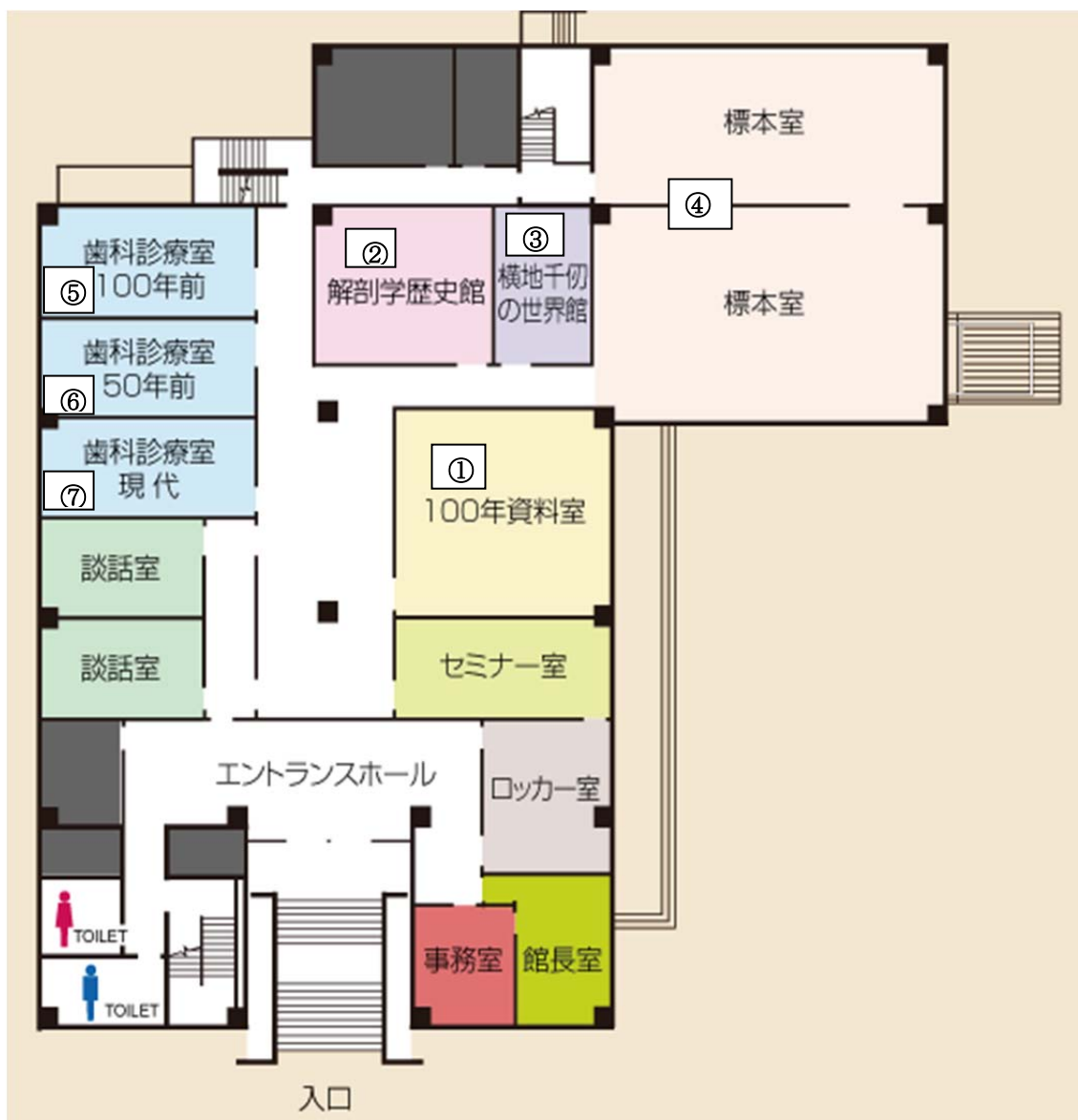
平成 25 年 5 月 17 日（金）法人は、本学文化の象徴と大学の新たなシンボルとして「神奈川県立歯科大学資料館～人体標本と 100 年史～」を開館致しました。

この施設は横須賀臨床研修センター（旧附属歯科技工専門学校）1F部 1065 m²を占有し本学解剖学の初代教授で日本の医歯学教育に多大な影響を齎した横地千仞現名誉教授が 21 年の在任中に作成された世界に類を見ない人体標本を中心に、本年度 103 年を迎える本学の軌跡や、100 年の時の流れを再現した歯科診療室など、約 500 点をそれぞれに赴きの異なった 7 室で構成・展示をしております。

なお、横地名誉教授は今年で御年 94 歳を迎えられましたが、矍鑠としてお過ごしされており、開設にあたり資料館名誉館長にご就任されました。また、初代館長には鹿島理事長がその任にあたられます。

資料館設立に際し、メインフロアに掲げられている館長のメッセージを以下に紹介致します。

◎第 I 章 館内図と各室の詳細



①100年資料室

開学 103 年を迎えた本学の軌跡を年表とパネルで展示致しました。また、凝縮した歴史をエンドレスで流すモニターと、幾多の貴重なアルバムは全て **ipad** で閲覧できます。また、解体新書やレオナルド・ダ・ヴィンチ解剖手稿、芥川龍之介自筆草稿「レオナルド・ダ・ヴィンチの手記」（抄訳1枚）など、貴重な資料が多数並びます。

②解剖学歴史館

人体解剖学に関わる資料と人体模型を配した室内において、特に目を引くのが解剖台です。殆どの大学が使用する乾式解剖台と、関東圏では本学のみ浸式解剖台、また最新型のプッシュプル型解剖台は、技術の進歩を物語っています。

③横地千仞の世界館

横地名誉教授と世界的解剖学者 **J.W.Rohen** 教授が共同出版された、解剖のバイブル的存在である書籍「カラー・アトラス・オブ・アカデミー」を初版より全て展示しました。

アトラスは、現在世界 20 カ国で翻訳されています。

また、横地名誉教授が優秀なアナトミストであると同時に、サイエンティストであり優秀なアーティストである事を改めて感じさせる独創的で繊細な絵画や作品の数々を多数展示しております。横地千仞の繊細な感性に浸れる、唯一無二の一室です。

④人体標本室

カラーアトラス・オブ・アナトミーに掲載してある多数の標本が並ぶ本学が世界に誇る標本室です。液浸人体標本・臓器標本・成人・小児骨格標本等、約 220 点を展示しその貴重で豊富な標本は、歯科大学はもとより医科大学を含めて看過することはできません。特に「病変」では無く「正常」な標本類は観るものを驚愕させます。

現在では、本学生のみならず、全国より約 2000 名の医療関係者が見学に訪れています。

⑤⑥⑦ 歯科診療室の 100 年

本学は、創立 100 年を超える歴史ある歯科医学教育機関であり、その 100 年に渡る悠久の刻（とき）の流れを「歯科診療室」という形で表現しました。

100 年、50 年そして現在へと **mechanical hardware** の変遷から眼で見る事のできない圧縮された刻の重みを感じとっていただきたいと思います。

その他、100 名の見学実習にも対応できるロッカー室を備え、50 名収容可能な談話室も完備致しました。また、少人数での利用に適したミーティングルームも新設し、訪れる方々への利便性も十分に配慮致しました。

◎第Ⅱ章 設立の経緯

この資料館設立の構想は、本年 1 月末に理事長室における会話がきっかけでした。

「白菊会会員様から多額の御寄附のお申出を受けましたので、小規模な建物で構わないので、現標本室の整備に充当させていただきたいのですが？」との問いに、理事長は「中途半端な整備では無く本学の至宝である人体標本に相応しい器を整えるように」とお答になりその場で標本を中心とし歴史を表現する部屋など、資料館構想の原型が誕生しました。

時を同じく、治療で附属病院に訪れた横地名誉教授をお招きし理事長より資料館構想が伝えられました。その際の横地名誉教授は満面の笑みで何度も「ありがとう」と繰返し標本の行末を気になされていた事を明かし、心から安堵されておりました。また、この時点で「開館日は 5 月 17 日」と理事長が明言され、横地名誉教授の開館式への御臨席も快くご承諾されました。

翌日から資料館構想は更に拍車がかかりました。臨床研修センターの 1 フロア部の全面使用や新旧の診療室の設置、各室の展開など次々に具体化され、迎えた 2 月 8 日開催の理事会にて資料館設立が正式に承認されました。同時に設立準備委員会 14 名も承認され、資料館設立の幕が開けました。

設立に際し、旧技専の面影を残す大量の物品・備品の数々や、臨床研修センターとして既に稼働している事務室・研修医ロッカー室の移動を含む、搬出・移動・廃棄から手掛けました。関連部署・課への調整、廃棄業者・設立業者との折衝、価値ある物品の学内での譲渡、平行して、各室のレイアウト・設置する物品の選定・什器のデザインや調達・空調

や照明の位置など、まさに東奔西走の日々でした。

設立準備委員が一番苦心したことは「高級感とシンプル」というコンセプトと「予算」です。この2つは表裏一体となり一同の頭を悩ませました。また、進捗過程においては様々なトラブルが付き纏い、日々ご確認される館長の厳しい指摘と発想の転換に、業者共々苦悩の連続で「本当に出来るのだろうか」といった重苦しい時期もありました。が、館長の高いモチベーションと溢れるバイタリティは皆に活力を与え「必ず出来る」という確信に変えていきました。

また、この課題を高次元で解決した工務店様の存在も忘れることはできません。特に横地千仞の世界館におけるアトラスを展示する手造りの本棚は、職人の匠の技が見られる極上の一品に仕上がっております。その他、随所にオーダーメイドの什器備品が並びこれらはすべて原価で納入していただきました。

当初の目標である「GW明けの完成」は遂行できませんでしたが、設立準備委員と各業者様による、まさに血と汗と涙の結晶である資料館は、5月15日（火）最新の歯科ユニットが搬入され遂に完成致しました。この日は、まさに生涯忘れる事はできない日となりました。

◎第三章 開館式

5月17日（金）爽やかな晴天に恵まれ、神奈川歯科大学資料館開館式が執り行われました。式典には開館を大変心待ちにしておられた、小泉進次郎代議士をはじめ、他大学解剖学の重鎮の諸先生方、保健福祉大中村学長や横須賀警察署長、今回の資料館設立にあたり多くの貴重な資料をご提供賜りました各業者様、本学理事を始めとした学内関係者や報道機関様など、約100名の方々にご参集賜りました。なお、小泉代議士は国会会期中の過密スケジュールの中、60分程の滞在でしたが事前に館長自ら館をご案内されましたことを追記致します。

式典は午前11:00、開学以来本学にご献体を賜りました1849柱への黙祷から開始されました。鹿島館長のご挨拶に続き、ご来賓を代表し小泉進次郎代議士からは「この資料館が歯科医学の発展に大いに寄与して欲しい」等のお言葉を賜りました。

次いで、横地名誉館長を中心に鹿島理事長、佐藤学長、梅本KDC社長、小泉代議士の5名によるテープカットを経て、神奈川歯科大学資料館の歴史の幕が開きました。

鳴りやまぬ拍手と感動的な音楽が相俟って深い感懐にひたる一瞬でした。

その後、ご来賓様と報道機関様を中心に資料館の内覧会を経て、場所を本部棟5F大会議室に場所を移し、開館記念パーティに移行致しました。

（なお、開館式と内覧会の模様は翌日の三大紙を始め、神奈川新聞・タウンニュース・日本歯科新聞等に掲載されました。これらの記事はすべて総務課に保管しておりますので拝読ご希望の方はお申出下さい）

内覧会の興奮冷めやらぬ午後12:15分、開館記念パーティが華々しく開幕致しました。佐藤学長のご挨拶に続き、盛大な拍手に迎えられ横地名誉教授が登壇されました。「人前で話すのは20年振りだからうまく喋れないよ」と事前におっしゃっておられましたが、マイクを握ると流暢な口調で語りかけるようにお話されました。本学にご着任された当時を懐かしむかのように、標本の作製とアトラス出版に至るエピソードをご披露されたのに続き設立に対する法人への感謝の言葉を述べられ、最後に「標本を造る事も大変な労力を要す

るが、維持・管理も同様である。教授を退官して26年、今まで標本を守ってくれた高橋教授に感謝しています」とお言葉を締め括られました。

次に高橋教授から乾杯のご発声をお聞きに懇親会が始まりました。セントラルホテル様の実演を含めた和洋折衷の料理の品々と、学食2Fわさび様ご提供による新鮮な船盛りにご参列者様も舌堤を打ち、和気藹々と会は進行致しました。輪の中心は勿論横地教授でお疲れのご様子も見せず、気さくに握手や記念撮影に応じておられました。

こうした中、御来賓を代表し横地名誉教授に縁のある2人の先生に御挨拶を賜りました。先にマイクを握った本学客員教授津田征郎監察医は、横浜市立大学時代の横地助教授の御様子を、次に篤志解剖全国連合会会長の大谷修富山医科大学名誉教授は、解剖学におけるアトラスの教育効果をそれぞれご披露されました。会も終盤に差し掛かかり、得意即妙で場を盛り上げる事に致しました。

大谷先生と共に解剖学重鎮のお2人にマイクを向けさせて頂きました。順天堂大学医学部解剖学教授の坂井建雄先生と杏林大学医学部解剖学教授の松村譲二先生には、横地名誉教授にまつわる幾多のエピソードを語って頂きました。突然マイクを向けられたにも関わらず、凜とした態度で丁寧に分かり易く語って頂いたお2人の先生にも驚愕したと同時に改めて横地名誉教授の偉大さを痛感致しました。

次に、設立に際し特にご尽力を賜りました各業者様と本学教職員をご紹介いたしました。短期大学部山田准教授、解剖学飯村講師、小口、野々村技能員と、歯科診療室への資料提供に帆走賜りました、(株)田中歯科機械店様、(株)ヨシダ様、(株)モリタ様を、最後に今回の一番の功労者として奥山工務店様をご紹介させていただき、感謝の念を込めた盛大な拍手で皆様を称えました。

時は瞬く間に過ぎ、今後資料館を管理・運営されるKDC株式会社、梅本社長より力強いお言葉を賜り、開館記念パーティは閉幕致しました。

管理・運営

神奈川歯科大学資料館は、KDC株式会社が管理・運営致します。入館につきましては、原則「医療従事者・医療関係者及び医療を志す者」に限ります。また、完全予約制となりますので、詳しくは以下にお問合せ下さい。

○資料館事務室

担当 勝野 あずさ

直通番号 046-822-9351

Mail shiryoukan@kdu.ac.jp

最後になりましたが、今回の設立に当り多大なご迷惑をおかけした関連部署様にはこの場をお借りして深くお詫び申し上げます。

また、通常業務をこなしながら設立にご尽力賜りました設立準備委員の教職員の皆様と「妥協無く最高の物を造る」を实践頂いた各業者様には、深甚なる感謝と御礼を申し上げます。

こうして万感の思いに包まれながら、資料館設立の約3カ月間が完結致しました。